

災害派遣医療チーム（DMAT）活動報告

2022年12月18日

救命救急センター 山本裕美

東8病棟 柳田真由美

災害派遣医療チーム（DMAT）は、大規模災害発生に際し中部ブロック各県 DMAT が緊密な連携を図り、被災地における病院支援、医療搬送、救急医療等を迅速に実行できることを目的とした実働的な訓練を行っています。令和4年度中部ブロック DMAT 実働訓練は石川県で震度6強地震が発生し多くの死傷者が出た想定のもと、11月26、27日の二日間にわたり実施されました。

石川県内に中部9県から約700人のDMAT隊員が参加し、県内の病院や被災した施設で活動を行いました。小松市民病院ではSCUが設置され、広域搬送、地域搬送の訓練も航空自衛隊と行いました。



SCUとは、Staging Care Unit といって、

日本語で広域医療搬送拠点や広域搬送拠点臨時医療施設と言います。

災害時に臨時の医療施設を立ち上げ、そこに集めた傷病者を病院に搬送する拠点のことです。

広域搬送とは、被災地において、多数の傷病者が発生した場合、重症患者を被災地外の病院へ搬送することで、主に航空機を用いて行います。

今回の訓練では、小松市民病院内に設置された SCU に石川県内の各地から、傷病者が集められ、そこで安定化を図り、再トリアージを行いました。広域搬送が必要とされた患者については、航空自衛隊小松基地までの搬送を行いました。訓練として実施したのは、ここまでですが、その後は、自衛隊 C-1 輸送機（患者8名を搬送可）に搭乗し、入間基地（埼玉県）や伊丹空港（大阪府）へ搬送する想定でした。

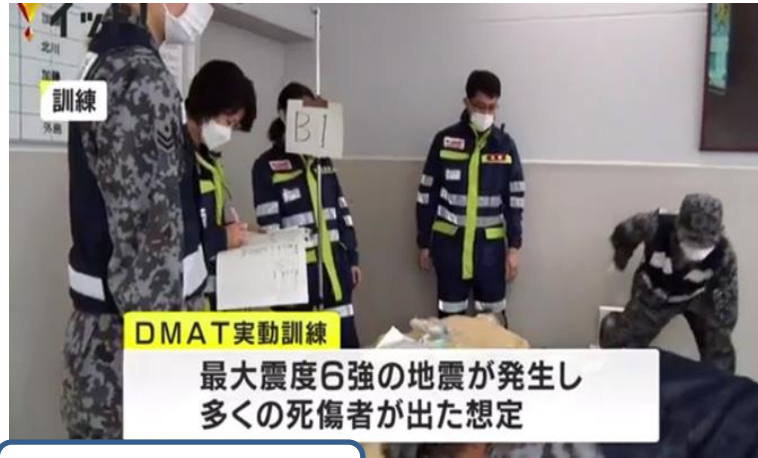


指示受け・情報共有

今回、当院 DMAT チームは、医師：呼吸器外科 彦坂 雄、看護師：山本裕美、柳田真由美、業務調整員：放射線技術科 加藤敬之の4名で参加しました。まず、参集拠点である公立松任石川中央病院に移動し、次に、小松市民病院への移動を指示されました。小松市民病院では、SCUの医療班として活動し、SCUにおいて、模擬患者（腹腔内出血患者2名、気道熱傷1名、クラッシュ症候群4名、骨盤骨折1名）を受け付け、緊急処置、安定化を図る処置とともに、「SCU受付用紙」「医療搬送カルテ(災害時診療情報提供書)」の記載を行いました。広域搬送が決まった患者については、SCUから航空自衛隊小松基地まで、自衛隊の救急車に同乗し、患者搬送をしました。



SCUでの患者受け入れ



引き継ぎを受け対応



広域搬送

当院は災害拠点病院であるため、活動本部として実働できるように今回の訓練を活かし院内訓練、災害学習会に取り組んでいきます。